

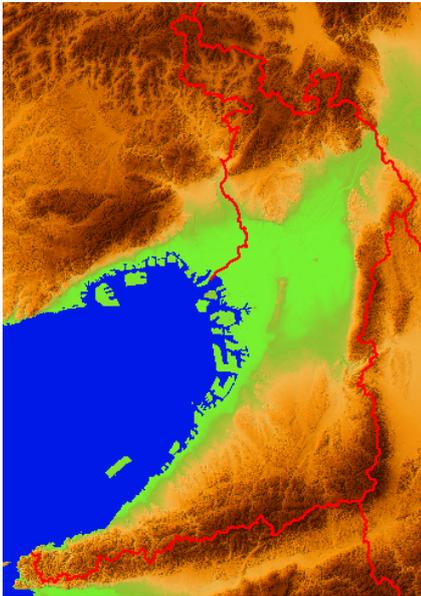
# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年1月号 通巻25号 毎月1日発行 購読無料

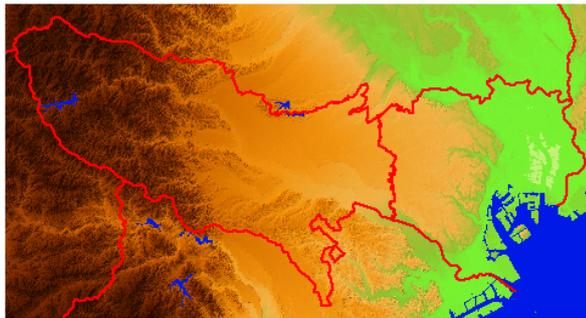
©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp



## 大阪タヌキ探検隊！ いよいよ開始

### 日本第2の都市圏にもタヌキはいる



同縮尺の大阪府と東京都。東京都の右側の領域が23区。全都道府県で2番目に面積が狭いのが大阪府、3番目が東京都といういい勝負です。これが人口だと東京都1位、大阪府2位となります。

全世界のタヌキスキーの皆様、明けましておめでとうございます。この東京タヌキタイムズも3年目です。今年もよろしくお祈りします。

#### 次は大阪だ！

実は既に2010年12月から、東京タヌキ探検隊！ホームページ内に大阪タヌキ探検隊！のページを設置しています。お気づきになりましたでしょうか？ ネット検索でも「大阪タヌキ」で調べると上位に表示されるようになっていました。

東京タヌキ探検隊！は東京都だけでなく、神奈川県、埼玉県、千葉県も情報収集の対象にしています。ではなぜ次は大阪なのか？ それは大阪が日本第2の大都市圏であるからです。日本最大の都市である東京都23区にタヌキが定住していることはわかりました。東京都多摩地区にはさらに多くのタヌキがいることは明らかです。また、お隣の神奈川県横浜市・川崎市にもかなりの数のタヌキが生息していることは確実です。

そうすると、これらに並ぶ大都市である大阪ではどうなのだろう？と知りたくなるのは当然のことです。同じことを考える読者の方もきっといるでしょう。

大阪府でのタヌキの目撃情報の収集はこれまでも試みた方はいるようですが、東京タヌキ探検隊！ほどの成果は得られていません。ならば、ノウハウを蓄積した私が乗りだすべきではないか、と決断をしたのです。私としても東京の比較対象として大阪は外すことができない地域です。

大阪府の都心にはタヌキは生息しているのでしょうか？ 大阪府最大の都市は大阪市と堺市ですが、そのどちらにもタヌキの目撃情報があることは既に把握しています。ただ、どれほど生息していて、どのように分布しているかまではまだまったくわかりません。目撃情報を蓄積していけば東京都23区での調査結果のように詳細な分布地図を作ることができます。その地図を皆様も見たいと思いませんか？

#### 目撃情報を教えてください

タヌキの目撃情報の連絡方法はホームページに詳しく書いてありますのでそちらをご覧ください。対象地域は大阪府全域、そして隣接する府県も含まれます。これは生息分布の連続性も知りたいからです。対象動物はタヌキだけではなく、ハクビシン、アライグマ、アナグマ、キツネも対象です。これらの動物は体格も生態も似ているため、比較のためにもまとめて情報収集、分析する必要があります。

大阪府および近隣の皆様、ぜひご協力をお願いします。

#### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年2月号 通巻26号 毎月1日発行 購読無料

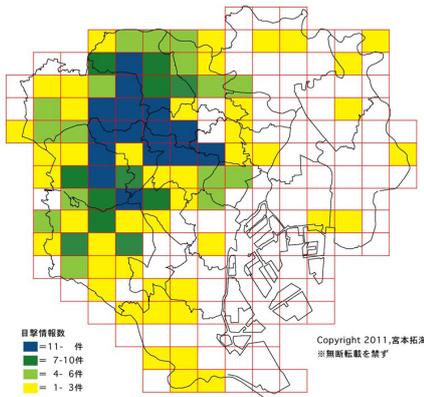
©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

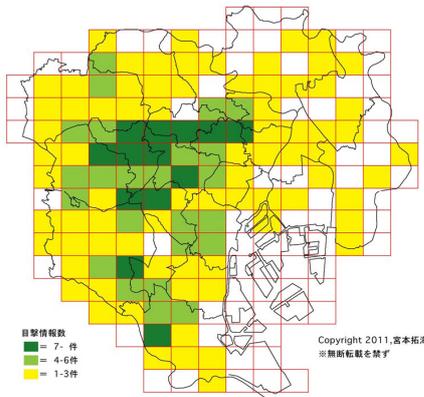
## ハクビシンついに逆転？

### 目撃情報数がタヌキを上回る

東京都23区 タヌキ目撃分布図(2008年～2010年)



東京都23区 ハクビシン目撃分布図(2008年～2010年)



タヌキ(左)とハクビシンの(右)の目撃情報の分布。2008～2010年の集計。どちらも北西部に偏った分布だが、ハクビシンの方が広く薄く分布していることがわかる。ハクビシンの目撃件数も増え、昨年よりも分布を正確に表しているはずである。

毎年恒例のタヌキ報告書を1月に公開しました。もうお読みになったでしょうか？ 今回の報告書タイトルは「[東京都23区内のタヌキ、ハクビシン、アライグマの目撃情報の集計と分析\(2011年1月版\)](#)」。ホームページに掲載しています。昨年同様、3年間のタヌキ、ハクビシン、アライグマの目撃情報を集計し分析しています。

### 2010年もハクビシン続々

昨年の報告書での最大のトピックはタヌキではなくハクビシンでしたが、今年もやはりハクビシンの話をしなければなりません。2010年は、なんと、タヌキよりもハクビシンの方が目撃情報が多かったです。タヌキ137件、ハクビシン159件。ついにハクビシンが追い抜いてしまいました。私は東京都23区のタヌキの生息数を約1000頭と推測していますが、どうやらハクビシンも同じぐらい生息しているのはかなり確実なようです。

ハクビシンの目撃情報が順調に集まった結果、その統計の精度もかなり上がりました。生息分布図も以前より正確になったと言えるでしょう。今年もこの調子で情報が集まれば、さらに詳しい分析ができるようになるはずです。

目撃情報を分析すると、ハクビシンが樹上生活者だ、ということがよくわかります。もちろん都会の住宅地には森林はありません。しかし森林の代わりに電線があります。電線・電柱にハクビシンがいたという目撃例は約23%もあります。他にも屋根の上だったり、木の上だったり、塀の上だったり目撃されており、全体の半分以上はそういった高い場所にいるのです。森林が無くても、ハクビシンは住宅地をまるで森林のように見立てて行動しているのです。

もう一方のタヌキは明らかに地面で行動する動物です。高い場所での目撃はほぼありません。タヌキがイヌの仲間であることを考えれば当然の生態です。生活場所が重ならない

ようにすることによって、タヌキとハクビシンはうまくすみ分けているのかもしれませんが。

### 情報収集に終わりはない！

タヌキ、ハクビシン、アライグマなどの目撃情報の収集は今後も続きます。情報を5年、10年と蓄積することによって、時間的な変化が見えてくるようになるかもしれません。この調査研究は1回限りで終わってしまふものではありません。これからも都会に生きるタヌキたちを調査していきます。

今後も皆様からの目撃情報をお待ちしています。どうぞよろしくお願い致します。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年3月号 通巻27号 毎月1日発行 購読無料

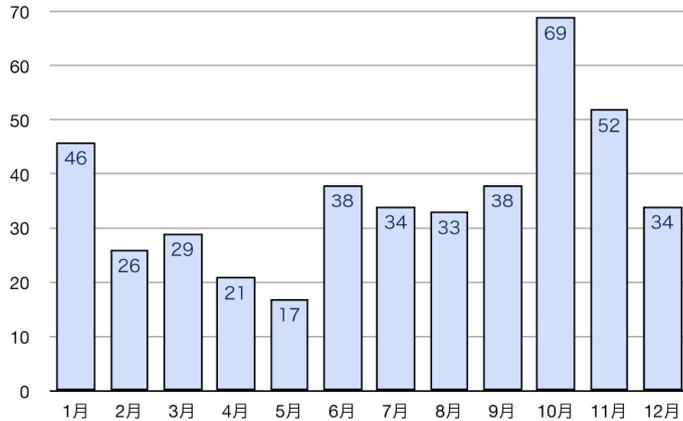
©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## タヌキはなぜ秋に多く目撃される

### 目撃情報から読み取るタヌキの生態

月別目撃件数(タヌキ)



タヌキの月別目撃件数のグラフ(2008~2010年の集計)。10月が最も多く、5月が最も少ない。これは偶然ではなく、タヌキの生態を反映している。

タヌキを目撃しやすい季節はあるのでしょうか。それがわかればタヌキ観察もやりやすくなるかもしれません。その答えは報告書「[東京都23区内のタヌキ、ハクビシン、アライグマの目撃情報の集計と分析\(2011年1月版\)](#)」にあります。上のグラフは報告書に掲載した月別目撃件数です。10月~11月が多く、2~5月は少なくなっています。これは400件以上のデータによる数字であり、偶然の結果ではありません。

#### 秋は旅立ちの季節

10月~11月に目撃情報が多くなるのは、この時期に子どもたちが親から独立し、新天地をめざして分散していくからです。そのためタヌキがあちこちらに出現し、人間に目撃される確率が上がると考えられます。この時期には、今まで目撃情報がほとんどなかった地域でも目撃されることがあります。

その後、冬になると目撃数は少なくなります。これはタヌキの活動が

不活発になっていることを示唆しているのではないのでしょうか。タヌキは冬眠はしません。しかし、外出しない日があったり、行動時間が短くなったりなどの変化が起きているのではないかと推測されるのです。やっぱり寒いと外出はしたくないのでしょうか。それとも食べ物が少ないので体力を温存しているのでしょうか。

では、暖かくなった5月の目撃数が最も少ないのはなぜでしょう。東京都23区ではタヌキの出産は5月上旬前後のようです。この時期は出産・子育てのために両親の行動範囲が狭くならざるを得ないと推測されます。お母さんは赤ちゃんに乳を与えるために巣から離れられず、お父さんもお母さんを長時間放置するわけにもいかず、遠出しにくいのかもかもしれません。

6月後半になると、子どもたちは巣から出てきて徐々に行動範囲が広がります。6月以降、目撃件数が回復するのはそのためです。

このように、月別目撃件数からはタヌキの生態を読み取ることができるのです。このグラフからは、冬から春にかけてはタヌキを見るには不適切ということがわかります。では秋は観察しやすいかということ、タヌキはあちこちへと移動するので、定点観察は難しいでしょう。

#### ではハクビシンは…？

月別の目撃件数を分析することでタヌキの生態がわかりましたが、ではハクビシンではどうでしょうか。ハクビシンの目撃情報を集計すると、タヌキとはずいぶん異なる結果になったのです。続きは来月号で。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

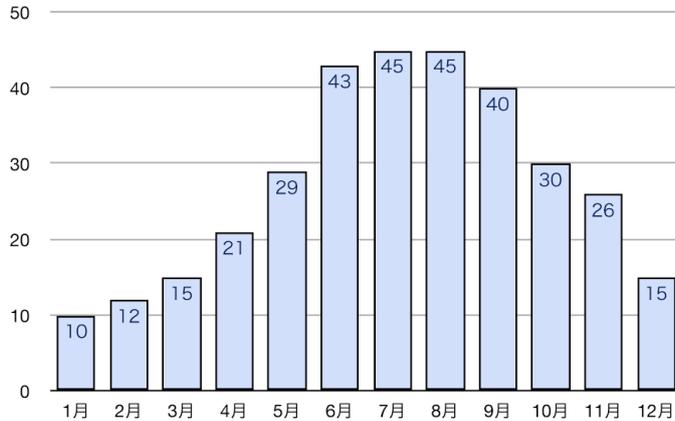
東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

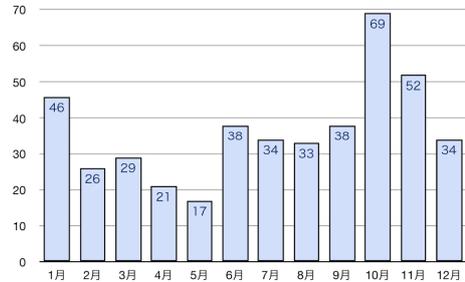
## ハクビシン4月のミステリー

### 4月後半に目撃情報が急増

月別目撃件数(ハクビシン)



月別目撃件数(タヌキ)



ハクビシンの月別目撃件数のグラフ(2008～2010年の集計)。タヌキのグラフも上に掲載した。両者のグラフは明らかに異なっている。

先月号ではタヌキの月別の目撃件数からその生態を解き明かしていましたが、今回はハクビシンの場合を見てみましょう。上のグラフのように、タヌキとは明らかに違った傾向になっています。

#### 4月後半に何があるのか？

タヌキの目撃は冬～春に少なく、秋に多くなっていますが、ハクビシンでは単純に夏に多く、冬に少なくなっています。これだけでもタヌキとハクビシンでは生態が異なる動物であることがはっきりとわかります。

特に注目したいのは、タヌキは出産の5月ごろに目撃が最も少なくなるのに対して、ハクビシンは出産の時期が読み取れないことです。目撃が最も少ない冬に出産しているのでしょうか？ これまでの目撃情報にはハクビシンが冬に出産することを示すものはありません。冬に目撃が少ないのは、寒くて活動が不活発になっているからではないかと考えた

方が正解のように思えます。ハクビシンの出産は、「年に2回」とする説や「出産時期は春から秋にかけて幅広い」という説もあり、はっきりしたことはわかりません。グラフでもはっきりと読み取れないのは出産時期が不特定であることを示しているのかもしれませんが。

もうひとつ、グラフからは読み取りにくいことですが、「4月後半になると急に目撃情報が増える」という現象があります。これは2009年、2010年で確認された現象です(それ以前は年間情報数が少なく、はっきりとわからなかった)。これはどう説明すればいいのでしょうか。「暖かくなったので活動が活発になった」という説明はもっともらしいのですが、4月後半というと最高気温も20℃を超える日があるような、かなり暖かい季節です。なぜ3月ではダメなのか、その理由が説明できません。冬も少ないながら目撃されているので、冬眠をしているわけではないでしょう。4月後半にいったい何が起きているのでしょうか？ ハ

クビシンはまだ謎が多い動物です。

#### 統計情報も重要な意味がある

目撃情報の収集は、私自身がタヌキやハクビシンを直に調査・観察するわけではありません。しかし情報数が数百件の規模になると、今回紹介したような月別の変化など統計的に意味のある情報が浮かび上がってきます。これも目撃情報を連絡してくださった皆様のおかげです。それぞれの目撃情報はささいなものであっても、それを集積すれば新しい発見もできるのです。皆様の目撃情報は調査研究に大きく貢献しているのです。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ・ハクビシン情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年5月号 通巻29号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## ためフンに集まる昆虫たち

そして、それを狙うタヌキ



タヌキのフンの中にあつたコブマルエンマコガネ。写真でははっきり見えないが、胸の部分に凹凸があるのがオスの特徴。フンの採集地は東京都中野区。

タヌキのフンの内容物を調べるためにフンを水洗いすると時々奇妙なものが出てきます。東京タヌキタイムズでもこれまで何度か紹介してきました。しかし、昆虫がまるごとそのまま出てくることはめったにありません。

ある時、フンの中から何やら大きめの固い物体が現れました。脚がついていることから昆虫であることはすぐにわかりました。そして固い翅を持つことから甲虫類であることも明らかでした。

### ためフンは昆虫の宴会場

この昆虫の正体はすぐにわかりました。その名は「コブマルエンマコガネ」。都会では珍しくない種類で、フンや死体を食べる昆虫です。フンを食べる昆虫はまとめて「糞虫(ふんちゅう)」呼ばれ多くの種類がありますが、ファーブル昆虫記に登場するフンコロガシ(スカラベ)が有名ですね。実は、コブマルエンマコガネがフンから出てくるだろうことは

以前から予想していました。というのも「赤坂御用地に生息するタヌキのためフン場利用と食性について」(手塚、遠藤、2005年)という論文で、タヌキはためフン場に集まる昆虫を食べていること、その昆虫の中にコブマルエンマコガネがいることを知っていたからです。

タヌキは決まった場所でフンをします。これはフンを食べる昆虫にとっては食べ物探しの手間が省ける便利な場所になります。そのためフンを食べる昆虫が集まり、さらにそのような昆虫を食べる昆虫もやって来ます(例えばハサミムシ類)。そして、集まってきた昆虫をタヌキが食べている、というわけです。タヌキもあちこち昆虫を探し回らずにすみ、楽ができます。うーむ、なかなか良くできた仕組みですね。

ためフンはタヌキの行動範囲を他の個体に示すためのもの、とされていますが、それだけではなく自らが食べ物(フンに集まる昆虫)を食べる場所にもなっているようです。

### よくかんで食べましょう

それにしても7mmほどもある大きさの昆虫が完全な形でフンの中から出てくるのはかなり珍しいことと言えます。たいていは脚、翅などのぼらぼらのパーツになってしまうものだからです。断片化したパーツから昆虫の種類を調べるのはかなり難しいことです。

タヌキはよく噛まなかったのか、それともあわてて飲み込んでしまったのでしょうか。そのおかげで昆虫の正体が簡単に判明したわけですから私にとってはありがたいことなものでした。でもやっぱり、よくかんで食べなさい！と言いたくなってしまいます。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年6月号 通巻30号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## 東京タヌキの足跡を探す

なかなか見つからない、イヌにそっくりな足跡



[左]は形がよく残っている足跡。[右]はツメ跡しか残っていないが、4本ツメであること、その位置、大きさからタヌキの足跡であることがわかる。[下]はハクビシンの足跡。5本指なのでタヌキやネコとは区別できる。



ハクビシン

動物の現場調査では足跡探しも重要です。動物そのものは見つからなくても、そう遠くない過去にそこに動物がいたという証拠になるからです。とはいえ、実際には足跡はなかなか見つからないものです。山林などでも土が露出して足跡が残る場所は多くありません。都会になると適度な固さの露出した土を探すことすら難しくなります。

### 土がある場所を定点観察

そんな都会でも土が露出している可能性が高い場所があります。例えば運動場などのグラウンドです。グラウンドの中央は土が固くなっているため足跡は残りにくいのですが、端の方は土が堆積していて適度に軟らかくなっています。これなら足跡が残る確率は高いので、定点観察を試みる価値はあります。足跡が残りにやすいのは雨がやんだ後です。そんな日は特に注意してみてください。また、タヌキではなく他の動物の足跡も探してみましょう。

ただ、タヌキと小型犬の足跡はともによく似ていて区別は難しいです。そのため、散歩のイヌが簡単に入り込めるような場所のあやしい足跡はタヌキだと断定することは避けなければなりません。逆に、散歩のイヌがまず入り込まないような場所ならばタヌキと断定できるわけです。上の写真も散歩のイヌが入り込める場所ではなく、野良犬が目撃されることもないため、タヌキの足跡であることが確実なのです。

足跡は必ずしもきれいな状態で残るわけではありません。時間がたてば形は消えていきます。また、固めの地面だとツメ跡しか残らないこともあります。上の右写真がそういう状態です。これでは動物の正体の判別は難しいと思われるかもしれませんが、4本のツメ、その位置関係と大きさからタヌキであることは明らかです。足跡を探す時はこのような不完全なものもよく注意して観察しましょう。

タヌキの足跡はネコの足跡にも似ています。しかし、ネコは歩く時は

ツメを出しませんので、足跡にツメ跡は残りません。ネコというツメが印象的かもしれませんが、足跡では違います。これは重要な判別ポイントですので覚えておきましょう。

### デジカメで証拠を残せ！

足跡探しをするなら、デジカメを必ず持っていきましょう。証拠をきちんと残せば、その場では判別できなくても後から検証することができます。写真を撮る時は足跡の脇に定規を置いて大きさがわかるようにしましょう。定規の他にも硬貨や名刺など大きさがわかっているものでも代用できます。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年7月号 通巻31号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## 消えゆく都心の緑地

それはタヌキに必要なもの、そして人間にも



[左]文京区のマンション建設予定地(2011年6月撮影)。植物が繁茂していて、タヌキも生息している。

[右]杉並区の企業用地。撮影は2007年9月で、住宅地の建設が始まっていた。ここでもタヌキはよく目撃されていた。

なぜ東京都23区のような大都会にタヌキが生息しているのでしょうか。その究極的な答えは「食べ物があるから」ということになります。食べ物がなければどんな動物も生きていきません。23区内にはタヌキの食べ物が十分に存在しているのです。

### タヌキ生息は自然がある証拠

タヌキが食べるものはフンを分析することで傾向がわかります。フンから最もよく出てくるのは昆虫です。昆虫の中でも植物の生えた地面、落ち葉のつもった地面にいるような種類、例えばゴミムシなどをよく食べています。昆虫ではありませんがムカデも食べています。

植物の中では果実が大好きなようです。カキノキ(柿)、イチヨウ(銀杏)、ムクノキなどの種子がフンの中からできます。

東京は大都会ですが、タヌキのフンの分析によって昆虫や植物が意外とたくさんあることがわかります。昆虫や植物は、さすがにビル街やオ

フィス街にはあまりありません。しかし、住宅街に行けば庭に柿がある民家はあちこちにあり、公園や神社などにはイチヨウなど多くの樹木があります。昆虫が好むのも植物が多い場所です。つまり植物が多いほどタヌキにとっての食べ物も多く、暮らしやすいということになります。実際、タヌキは緑地やその周辺での目撃が多い傾向があります。タヌキが生息しているということは、ある程度の豊かな自然環境がそこに存在することの証拠でもあるのです。

### 残る緑地、残らない緑地

都会の緑地の代表は緑地のある大きな公園です。神社や寺の敷地も植物が多く好環境です。これらの緑地は半永久的に存続するので、タヌキにとっては安定した生息場所になります。

この他にも企業用地(運動場など)や個人所有地(屋敷林)なども都会の緑地です。しかし、こちらは不安定

な自然環境です。企業用地は景気が悪くなればさっさと売り払われますし、個人の土地は相続税の都合などで売却されたりマンションが建ったりします。こういった土地では緑地の復活はまずありえず、減少する一方です。タヌキのためにはこのような緑地も維持してほしいものです。タヌキのためだけではありません。このような環境には鳥や爬虫類、両生類など多様な生物も生息できます。それに人間にとっても緑地は必要なものだと思いますか？

以前ならこのような「人間よりもタヌキ」という考え方はあまり受け入れられませんでした。しかし、最近では風向きも少し変わってきたように感じられます。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年8月号 通巻32号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## ハクビシンはフルーツ好き？

### いまだ謎多き食性



ハクビシンのフンの  
内容物

[左]ビワの種子  
(2011年5月、世田  
谷区)。

[右]トキワサンザシ  
属の種子(2011年2  
月、杉並区)。

タヌキの研究ではフンの分析が重要ですが、これはハクビシンでも同じです。東京都23区のハクビシンは都会でいったい何を食べているのでしょうか？ タヌキと同じようなものを食べているのでしょうか？ これはまだほとんど調べられていない未開拓の分野です。

この研究で難しいのがフンの収集です。もし道端にフンがあったとしても、それはネコやイヌのフンとの区別は難しいです。しかし、ハクビシンのフンであることが確実な例があります。それは屋根や上階のベランダにあるフンです。そのような場所にまで登れる哺乳類は東京都23区内にはハクビシンぐらいしかいません(アライグマも可能ですが、23区内での確率はかなり低いものです)。ただ、ベランダなどのフンがハクビシンのものだと気づかれる方は少ないようで、情報はなかなかやっけて来ません。

#### フンの中身は種子ばかり

今年は幸運にもハクビシンのフンを2件入手することができました。1件目は2月に杉並区で入手しました。民家の屋上にあったものです。そのフンは赤色(正確にはレンガ色)をしていました。フンには多数の小さな種子が含まれていました。調べてみると、これはトキワサンザシ属(具体的にはトキワサンザシ(ピラカンサ)、タチバナモドキ、カザンデマリ)の種子と推測されました。これらは住宅の庭にもある低木で、秋から冬に小さな赤い実をつけます。フンが赤かったのは実の色のためだったのです。

2件目は5月、世田谷区のものでした。こちらは自動車の屋根の上にフンがありました。フンにはビワの種子ばかりが含まれていました(ということはネコの可能性はないということです)。5月はちょうどビワの実の季節です。

いずれのフンにも種子の他に未消化の果肉と果実の皮らしきものが含まれていました。ところが不思議な

ことに、他にははっきりとわかる物はまったくありませんでした。

#### 果実の他には？

ハクビシンが果実が好きなのはわかりましたが、果実は1年中あるわけではありません。春や真夏には果実はかなり少ないです。果実だけに頼って生きているわけではなく、他にも何かを食べているはずですが、それが今回のフンには果実以外の物は見つかりませんでした。タヌキなら昆虫の断片がたいてい見つかるのですが、それもありませんでした。ハクビシンは果実以外は何を食べているのか。謎はまだ全然解明されていません。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ  
情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年9月号 通巻33号 毎月1日発行 購読無料

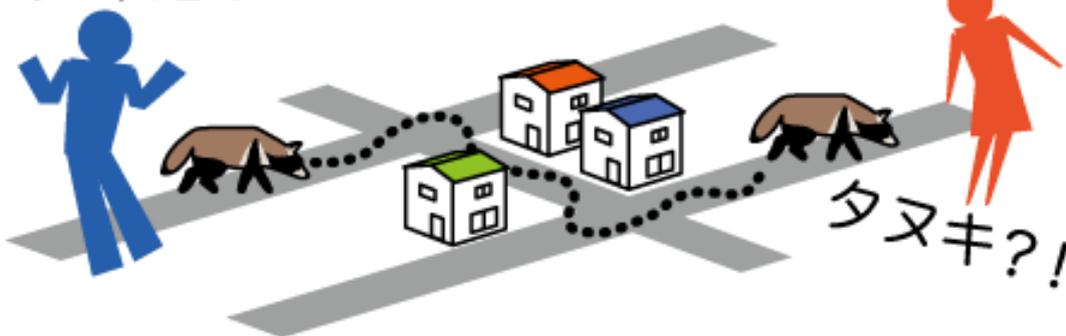
©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## タヌキをほぼ同時に目撃する確率

### 非常に少ない近接目撃事例

タヌキだ！



近接目撃事例とは、「別の人が」「非常に近い時刻に」「非常に近い場所で」という3条件がそろった事例のこと。

東京タヌキ探検隊！にタヌキやハクビシンの目撃情報をメールしようとする時、「他の誰かが目撃している、既にメールしてるんじゃないか？」と迷う人がいるかもしれません。実際はというと、そのような確率は極めて低いのです。東京タヌキ探検隊！のデータベースには現在1700件以上の目撃情報が記録されていますが、「別の人が、非常に近い時刻に、非常に近い場所で」目撃したという事例はたったの2回(いずれもタヌキ)しかないのです。このような珍しい事例は「近接目撃事例」と呼んでいます。

#### たった2つの事例

事例のひとつは渋谷区でのものです。時間差は約15分、直線距離で約50mでした(DBN364、365)。この周辺ではタヌキは定住していないと考えられるため、確実に同一個体と言えます。

もうひとつは世田谷区で、時間差約10分、直線距離約130mというも

のでした(DBN1345、1346)。距離は離れていますが、走らなくても十分移動できる距離です。タヌキの移動方向も矛盾しておらず、やはり同一個体だと考えられます。

1700件の目撃情報があっても、同じ個体をほぼ同時に目撃することは非常にまれなのです。いや、実際には同じタヌキを多くの人が目撃したとしても、それを東京タヌキ探検隊！まで連絡してくれるのはほんの少しだけなのでしょう。誰もが東京タヌキ探検隊！のことを知っているわけではありませんし、知っているもメールを出してくれるわけではないからです。

ですから、目撃情報をメールしようかどうか迷わないでください。他の誰かがメールをする可能性は極めて低いのです。もし近接目撃事例になったならば、それはそれで非常に価値のあるものです。タヌキやハクビシンの行動範囲や移動速度などを推測する材料になるのですから。

(※「DBN」とは東京タヌキ探検隊！のデータベースに記録されてい

る目撃情報の通し番号です。全国、全動物を対象に番号が付けられています。)

#### 近接でない事例

3つの条件がそろわない事例は非常に多くあります。例えば民家の庭に毎晩来る、という状況は時々発生しますが、「別の人が」という条件が当てはまりませんので近接目撃事例にはなりません。「別の日に近い場所で目撃」という事例は当然多くあります。

多数の目撃情報を得られても、それは現実のほんの一部を見ているだけにすぎません。もっともっと多くの目撃情報が求められるのです。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年10月号 通巻34号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## タヌキの鼻は低くない

どこからどう見てもタヌキはイヌ顔



(左)タヌキの横顔。2010年7月撮影。

(右)冬毛のタヌキの顔。冬毛では首から後方の毛が長くなるので、正面から見ると丸顔に見える。だが吻が短くなるわけではないので、やはりイヌ顔。顔の毛は冬毛でも長くはならない。2009年11月撮影。

イラストやマンガでのタヌキの絵というと、鼻が低い丸顔に描かれることがほとんどです。イヌのように鼻が長いタヌキの絵というのはめったにありません。しかし実際のタヌキの顔はどこからどう見ても鼻が長いのです。世の中には間違ったタヌキの図像があふれているのです。

ちなみに、「鼻」と書いていますが、眼から前方の鼻先までの部分は専門的には「吻」(ふん)と呼ばれています。

### イヌの仲間は吻が長い

イヌ科の動物は吻が長いのが特徴です。オオカミもキツネも鼻が長いのはご存知の通り。タヌキもイヌ科に分類されますので吻は当然長いです。上の写真のように、まるでイヌのような、いや、イヌそのものの顔をしています。ネコは逆に吻がかなり短いです。「鼻がとがったネコ」なんてのは存在しないわけです。同じネコ科のライオンもトラもヒョウも吻は短いです。動物園に行った

り、テレビの動物番組を見る時には吻の長さに注目してみてください。

どうしてイラストになるとタヌキの鼻は低くなるのでしょうか？

「鼻が低い方がかわいく見える」という理由はあるでしょう。しかし、それでも鼻が低いイヌのイラストはありませんよね(パグのような鼻が低い品種は別として)。鼻が長いのがイヌの特徴ですから、それを表現しなければイヌには見えません。タヌキだって同じはずですが。それでもイラストのタヌキの鼻が低いのは「イラストレーターに観察力が無いため」だと言わざるをえません。ちゃんと本物を見て、資料を調べれば鼻が低いタヌキなんて描くことはできないはずなのです。

世間的には鼻が短い「間違ったタヌキ」ばかりが有名です。そのため、タヌキの本当の姿を知らない人も多いのではないかと、夜道でタヌキを見てもタヌキとわからない人がいるのではないかと、心配です。目撃情報を集めている私にとってはこれは重大な問題です。

### 吻が短いイヌがいる?!

「イヌは吻が長い」というのは事実ですが、吻が極端に短いイヌというのも存在します。皆さんも見たことがあるはずですが、パグ、ブルドッグ、ボストン・テリア、チン(狚)、チャウチャウなどなどです。これらの品種のイヌも元をたどれば吻が長い普通のイヌでした。人間による長年の品種改良の結果、吻が短く短くなっていったのです。長い吻を失ったこれらの品種は「イヌらしくないイヌ」なのです。むしろ「タヌキの方がイヌよりもイヌらしい顔をしている」と言っていていいでしょう。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です!

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年11月号 通巻35号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## これがセンサーカメラだ！

### 雨にも負けず風にも負けず働きます



(左)三脚に設置したセンサーカメラ。脚に巻き付けているのは模造植物。水のはいった2リットルのペットボトルをポリ袋に入れて重しにしている。全高は約75cm。  
(右)雨どいに設置したセンサーカメラ。高い位置に設置できるので、タヌキに警戒されにくい。

東京タヌキ探検隊！では動物などを自動撮影する装置「センサーカメラ」を設置させていただける場所を募集していますが、そのセンサーカメラがどのようなものなのかまだ紹介していませんでした。今回はセンサーカメラの写真とっしょに説明していきましょう。

### センサーカメラの構造

私が使用しているセンサーカメラは麻里府商社製で、2008年のモデルです。本体上部にセンサーがあり、赤外線を感じるとデジタルカメラを起動させ写真を撮ります。本体とセットで販売されているデジタルカメラは市販の製品で、オリンパスのμ1030SWです(デジカメは次々に新製品が登場するので、付属のデジカメも毎年変更されています)。デジカメはシャッター部分が改造されていてセンサーカメラ専用として使うようになっています(普通のデジカメとしてはちょっと使えない)。同社のセンサーカメラは2011年のモデル

では5万円台の値段となっていて、気軽に買えるようなものではありません。

センサーカメラは山林内で数日から数週間放置しておくのが基本的な使い方ですので多少の悪天候には十分耐えられるものになっています。デジカメも防水仕様です。

### センサーカメラの設置方法

山林でセンサーカメラを設置するならば木の幹や枝に固定する方法が一般的です。住宅地ならば雨どいや適度に細い樹木にカメラ用クリップで固定します。ただ、都合がいい場所がないことも多く、そういう場合は三脚に設置します。三脚は強風の時に転倒するおそれがありますので、水を入れた2リットルのペットボトルをポリ袋に入れて重しとします。もし近くに柵など固定できるものがあれば、三脚の脚をそれにしぼりつけて固定し、ペットボトルは使いません。三脚に模造植物を巻き付けているのはカムフラージュのため

ですが、効果があるのかは不明です。こんなものにだまされるほど野生動物は間抜けではないでしょうから、ただの飾りにすぎないかもしれません。しかし少しでもタヌキをだませればそれで十分です。

設置期間は1~2週間です。バッテリーがそれ以上持たないからです。もしタヌキなどがいるなら最初の数日以内に撮影できるはずですので、最低1週間設置できれば目的は果たせるでしょう。

センサーカメラで撮影すればタヌキの訪問の時刻がわかるなど行動パターンの解明に役立ちます。センサーカメラの設置にぜひご協力ください。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年12月号 通巻36号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## 東日本大震災を越えて 東京タヌキは元気です(ハクビシンも)



(左)2011年3月15日  
午前1時00分撮影。  
(右)2011年3月19日  
午前3時35分撮影。  
撮影地はいずれも東京  
都23区内。

まだ1ヶ月を残していますが、今年2011年最大のニュースは東日本大震災であることは間違いありません。東京都23区は幸い震度5強だったため、鉄道が停止するなどの混乱はありましたが大きな被害はありませんでした。塀が倒れたり、瓦が落ちたりという被害はあったもののがかなり限られたものでした。ですから東京タヌキたちにも大きな被害はなかったはずですよ。

### 震災直後、東京タヌキは…

地震後の週が明けた3月14日月曜日、私は23区内のある場所でセンサーカメラを設置しました。これは以前から設置の日程を決めていたものでした。この日は計画停電の初日で、一部鉄道が運休するなど混乱が予想されましたが、現地の方からは予定通りの設置を快く了解していただけました。2週間後、センサーカメラを回収すると、たった2枚だけタヌキが写っていました(上写真)。この時期はタヌキの活動も不活発で

すし、センサーカメラがひっくり返っていたり、バッテリーがもたなかったりで1週間しか稼働していなかったことを考えると十分な成果です。震災の影響は心配していませんでしたが、無事な姿を確認できて安心しました。

### その頃もうひとつの危機が！

センサーカメラを放置していた2週間、別の危機が進行していました。目撃情報のメールがまったく来なくなったのです！ここ数年は毎日のように目撃メールが届いており、何日もメールが来ないということはありませんでした。ところが震災後、目撃情報が急に途絶えたのです。正確に言うと、目撃情報はあったものの、交通事故死体、大阪市の目撃情報、震災前の目撃情報といったもので、23区内の生きているタヌキ、ハクビシンなどの情報が来ないのです。理由は明らかです。震災そして原発事故、計画停電、流通の停滞…私たち人間はタヌキやハクビシ

ンを気にしていただける心理状態ではなかったのです。もし状況がさらに悪化すれば、もう二度とメールが来なくなるかもしれない…という恐怖を感じることもさえました。

ようやく生きたハクビシンの目撃情報が来たのは3月21日。その後はいつものペースに戻りました。東京の人々の心が落ち着くまでには10日も要したのです(しかし余震や食品の品不足などでまだしばらくはざわついた状況が続きました)。

震災にもかかわらず、今年は例年以上に目撃情報が来る結果になりました。12月1日現在、既に400件以上のメールが来ています(23区のみ)。しかもハクビシンだけで約250件、タヌキを上回る勢いなのです。

## スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ  
情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>